

SNSにおける 言語コミュニケーションについて

：SNS言語は書き言葉？話し言葉？

坂田 祐梨

はじめに

近年、スマートフォンが普及し、SNS上でコミュニケーションを行うことが普通となっている。このことは人々の生活を便利にした一方で、新しい問題を生み出している。例えば、SNS上だからこそその誤解の発生や新たなストレスの発生〔1〕、「。ハラ」なんて言葉もできてきている。だからこそ今一度、SNSにおける言語コミュニケーションを人々がどのような言語でとっているのかを確認する必要がある。

そこで今回は、「SNS上で用いられる言葉は書き言葉に近いか。話し言葉に近いか。」という問いをたてて調査した。この問いで言うSNS上で用いられる言語は、LINEやInstagramのDMなどで特定の相手とコミュニケーションをとる際に用いられる言語を指す。

方法

言語学Bの授業を受講している東工大生と、東工大ストリートダンスサークルH20の16期の人たちを対象にGoogle formのアンケート回答協力をお願いし、調査をした。質問内容は以下の4つである。

1. SNSで人とやり取りをする際、どちらの言葉を主に使っている感覚ですか。
2. SNSにおけるやり取りで大切だと思うことは何ですか。
3. SNSにおけるやり取りで絵文字はどの程度使いますか。
4. SNSにおけるやり取りの際の文末の様式としてどれが一番多いですか。

結果

集まった回答者数は合計30人であった。回答の集計結果は図1～図4の通りである。図1から分かるように、SNSで用いる言語は話し言葉だと感じている人は4分の3以上を占めていた。また、問2ではSNSにおけるやり取りにおいて「誰が見ても誤解のないような文」であることを大切だと思っている人が7割を占めていた。そして問3では絵文字を使う人は半数以上であった。問4では、文末を「。」にする人は1割程度であり、「！」が3割弱、「」が4割であるという結果になった。

結論：SNSで用いられる言葉は話し言葉に近い。

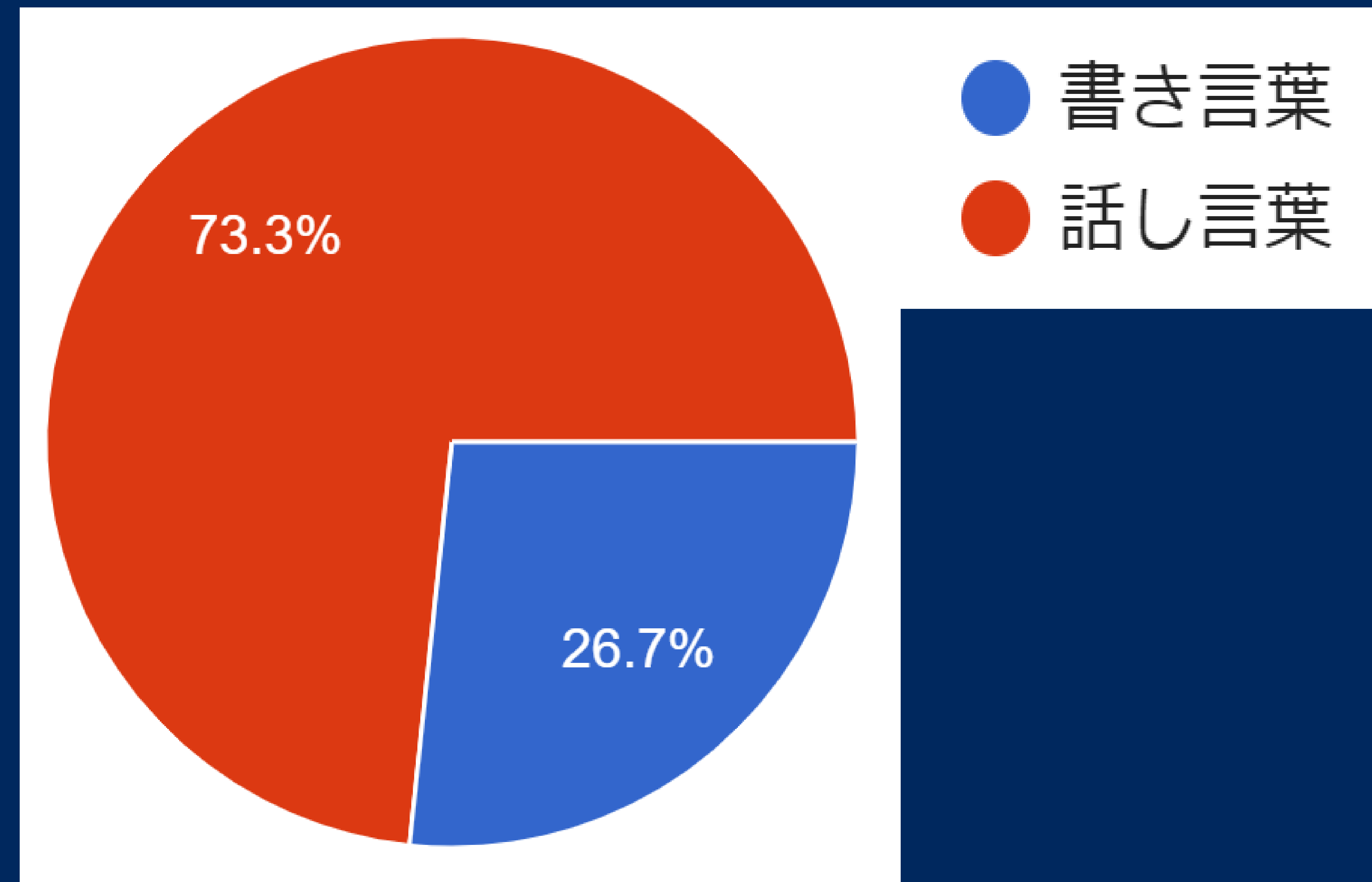


図1：質問1「SNSで人とやり取りをする際、どちらの言葉を主に使っている感覚ですか。」に対する回答結果

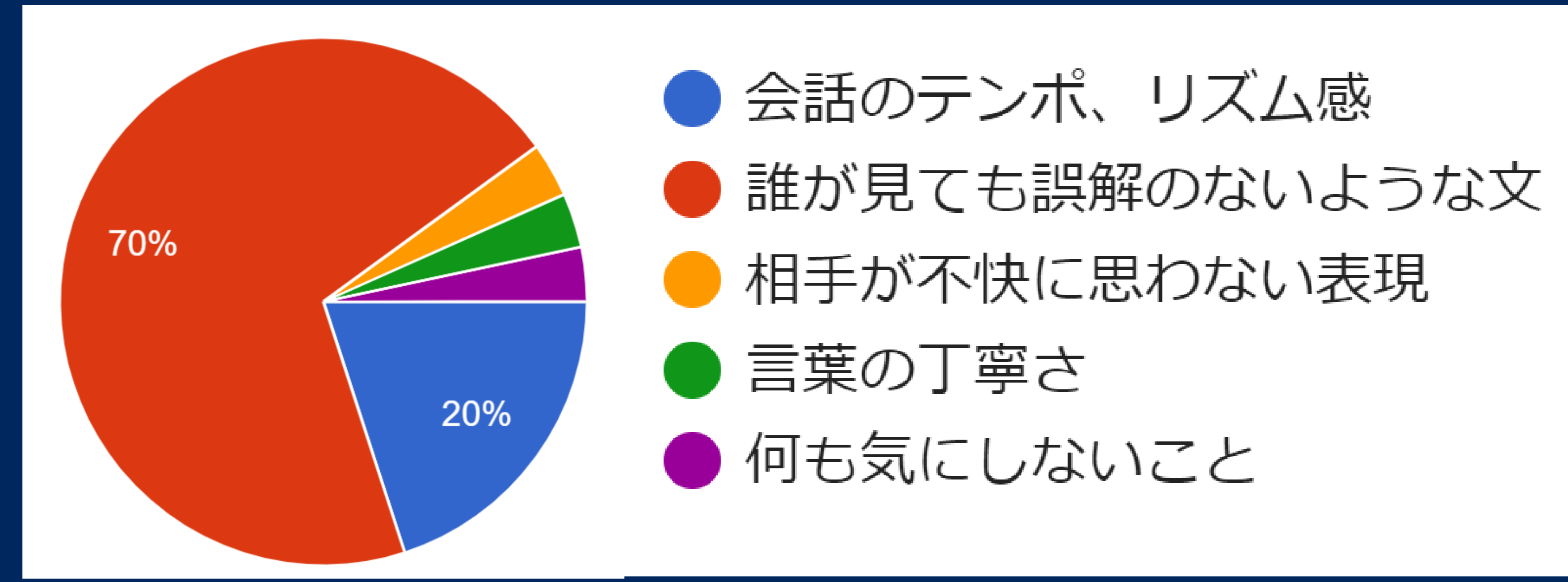


図2：質問2「SNSにおけるやり取りで大切だと思うことは何ですか。」に対する回答結果

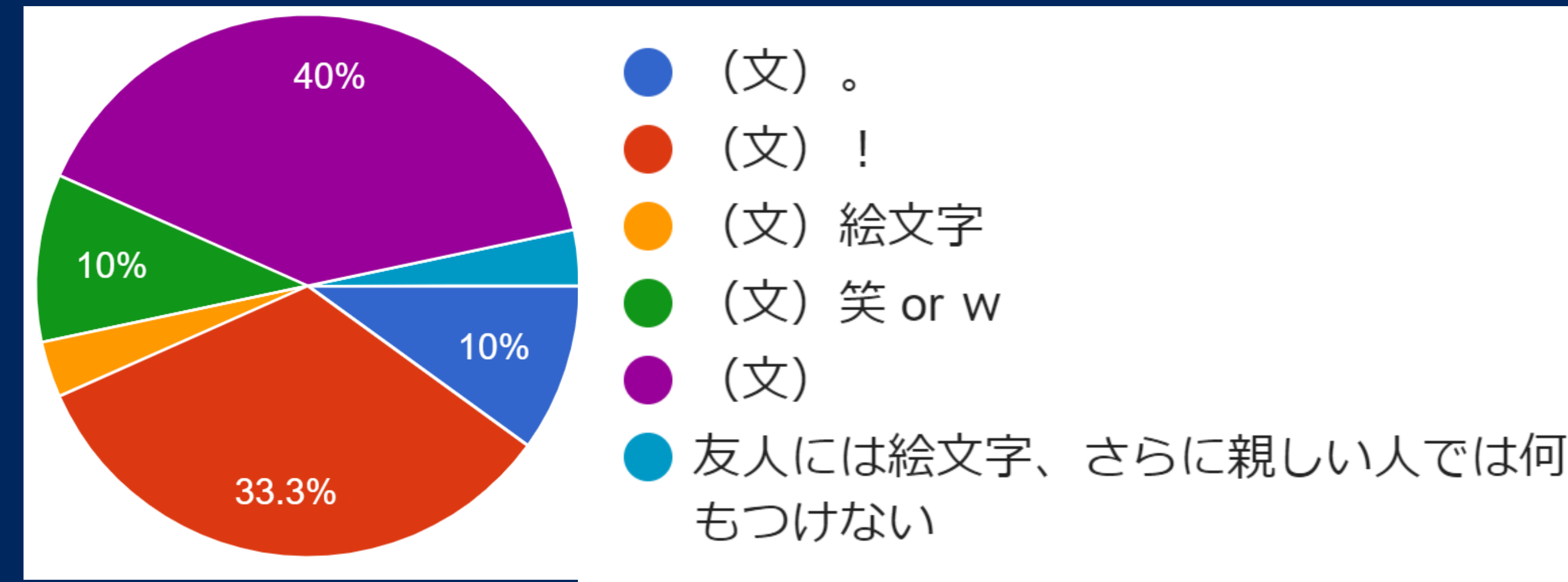


図4：質問4「SNSにおけるやり取りの際の文末の様式としてどれが一番多いですか。」に対する回答結果

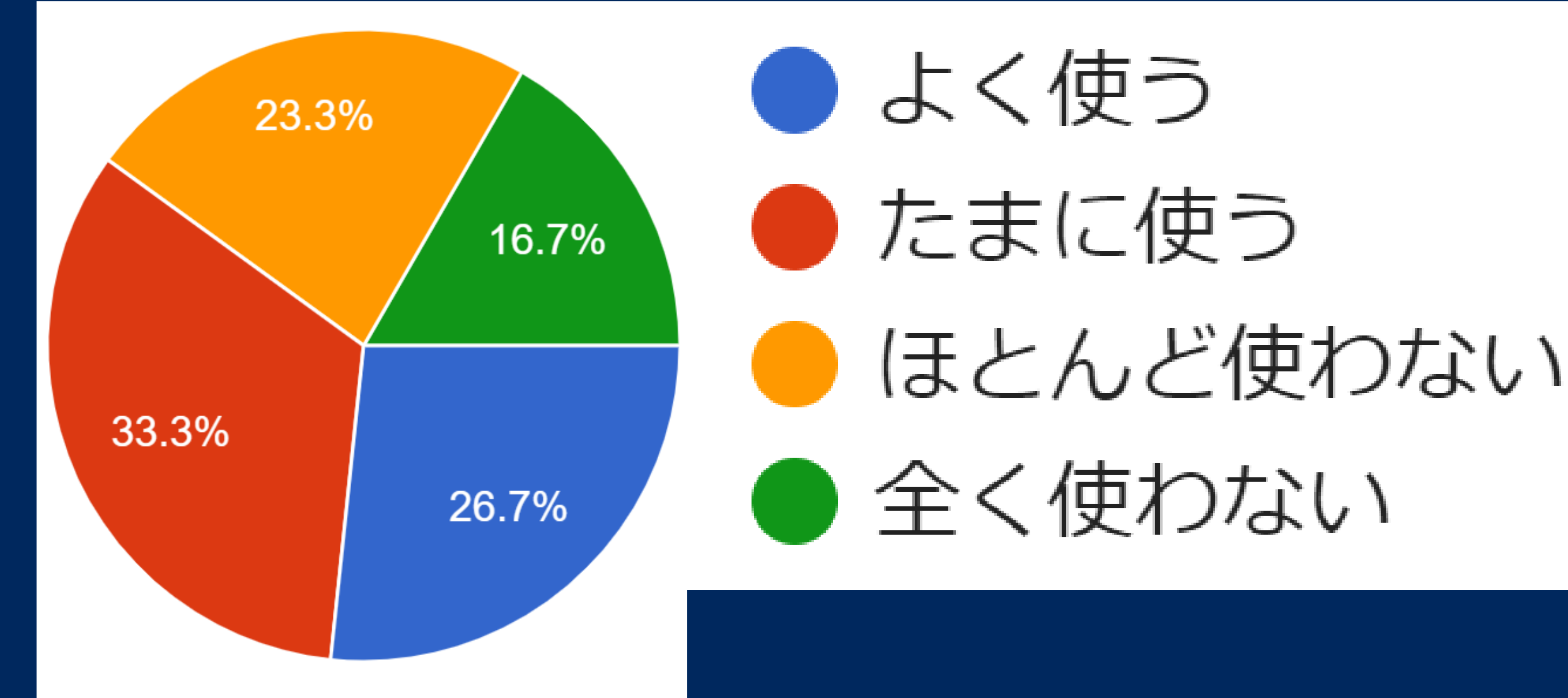


図3：質問3「SNSにおけるやり取りで絵文字はどの程度使いますか。」に対する回答結果

考察

図1の結果から、人々の思うSNSで用いられる言葉は話し言葉に近いと考えられる。問3の結果でも、絵文字を用いる人が半数を占めていて、絵文字は対面コミュニケーションにおける表情に近い役割をしているため、人々がSNS上でも「書いている」というより「話している」という感覚であることを示していると考えられる。また、問4の結果でも文末の形式として「」または「！」を選択することが多い人が7割以上を占めていて、話し言葉の、文の区切れの分かりづらいという特徴や言葉に感情の乗っている感覚を満たしていると考えられる。

しかし、問2の結果では、話し言葉の特徴である「会話のテンポ、リズム感」よりも、話し言葉の特徴である「誰が見ても誤解のないような文」をSNSにおけるやり取りにおいて大切だと感じている人が多く、7割を占めていて、書き言葉の要素も含まれてはいると分かる。

これに対し、文化庁国語分科会は、書き言葉であってもくだけた話し言葉的文体の文字入力による言葉として「打ち言葉」という新しいジャンルを示している。〔2〕

また、今回の調査対象は、東工大に通っている学生のみであり、東工大生ならではの特徴も含んでしまっている可能性のあることに注意が必要である。

おわりに

結論としては、「SNS上で用いられる言葉は話し言葉に近い。」と言える。しかし、実際にリアルタイムかつ対面で話しているわけではないからこそその誤解の生みやすさをSNS上のコミュニケーションは持っているため、書き言葉の「客観性」もある程度含んでいる。そのため、SNS上のコミュニケーションで用いられる言葉は「書き言葉」でも「話し言葉」でもなく、「打ち言葉」というまた新しい種類の言葉だと考えるべきだと今回の調査を通して感じた。

文献

〔1〕 佐藤広英・矢島玲、大学生のSNSにおける対人ストレス経験-社会的ネットワークとの関連-、信州大学人文科学論集 4: 53-63(2017)

〔2〕 文化審議会国語分科会（2018）「わかりあうための言語コミュニケーション（報告）」文化庁